

臨床心理学概論Ⅱ		2018～	科目コード	FF4555
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
1	R	3年以上	清水 めぐみ	



※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。

科目の概要

■科目の内容

心理臨床において培われてきた代表的な理論の成り立ちと特徴を理解することが、心理臨床の実際や心理療法（心理学的支援法）や心理的アセスメントといった臨床心理学に基づく実践における必須の基盤となります。臨床心理学概論Ⅱでは、臨床心理学概論Ⅰで概観した臨床心理学の大枠を踏まえたうえで、代表的な理論をより詳細に学び、各理論の特徴を、その成立の経緯や他の理論との比較から把握していきます。

■到達目標

- 1) 臨床心理学の成り立ちをその歴史を踏まえて説明できる。
- 2) 臨床心理学の代表的な理論のいくつかについて、その特徴を他の理論との比較しながら説明できる。
- 3) 心理臨床の実践の具体例において、理論を基盤とした対象者についての理解（仮説）を記述できる。

■教科書

野島一彦・繁樹算男 監修『公認心理師の基礎と実践3 臨床心理学概論』遠見書房、2018年

■履修登録条件

この科目は、レポート提出条件の達成に必要な科目をすでに履修登録済みか、同時に履修登録する方のみが履修登録可能です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%＋科目修了試験50%

■参考図書

妙木浩之『初回面接入門』岩崎学術出版社、2010年

河合俊雄編著『ユング派心理療法』ミネルヴァ書房、2013年
 伊藤絵美『認知療法・認知行動療法カウンセリング』星和書店、2005年
 岡昌之ら編著『心理療法交差点2』新曜社、2016年
 田中千穂子『プレイセラピーへの手引き』日本評論社、2011年

レポート学習

■在宅学習8のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	臨床心理学の成り立ち	日本および世界の臨床心理学の歴史を概観し、臨床心理学とはどのようなものかを把握する。	19世紀、世界大戦、心理学的支援法、心理アセスメント
2	精神分析	今日に至る精神分析の流れと意義を概観する。	無意識、自由連想
3	分析心理学	精神分析から派生したユングの考え方とその今日における展開を概観する。	自己関係、物語、イメージ
4	行動論・認知論	歴史を概観し、代表的な理論と技法を概観する。	行動療法、認知療法
5	ヒューマニスティック・アプローチ	人間性心理学の歴史と人間観とそれに基づく心理療法を概観する。	クライアント中心療法、フォーカシング
6	グループ、コミュニティ	グループやコミュニティへのアプローチを概観する。	集団精神療法、スクールカウンセラー
7	非言語的アプローチ	遊戯療法、箱庭療法などの非言語的アプローチを概観する。	象徴、描画
8	その他のアプローチ	システミック・アプローチ、ナラティブ・アプローチ、統合的アプローチを概観する。	システム、社会構成主義、折衷

■レポート課題

※レポート提出条件

- (1) 「心理学概論A」、「心理学概論B」、「福祉心理学」、「発達心理学」、「臨床心理学概論Ⅰ」、「心理的アセスメントⅠ」、「心理学研究法A」、計7科目の単位修得
- (2) 卒業要件単位90単位以上修得していること

1 単位め 『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。

2 単位め

まず、臨床心理学の歴史を、心理療法（心理学的支援法）の流れに焦点を当てて概説してください。その上で、「学校の先生が怖い」と訴えて登校を渋る小学校2年生女兒Aさんの心のありようを「自己関係」の点から説明し、このAさんと比較して教科書158～165ページに記載されている事例の特徴を「自己関係」「融合」「主体」の語を用いて説明してください。また、Aさんの心理療法（心理学的支援法）について、①精神分析、②行動論・認知論の立場からそれぞれの目標と方法を述べてください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1 単位め アドバイス

教科書をよく読み、客観式レポート課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2 単位め アドバイス

科目を通じてさまざまな臨床心理学の基礎理論を学んでいきますが、いわゆる3大心理療法をその成立と展開の歴史にそって、それぞれの特徴や異同をしっかりと把握しましょう。心理学的支援法（心理療法）では自分を振り返ってみることが前提となりますが、分析心理学的アプローチで説明されている「自己関係」の点から「怖い」という訴えについて、どのように考えられるのかを検討しましょう。その際に、教科書158～165ページに掲載されている事例の「自己関係」や「主体」のあり方と比較することで「怖い」と訴えられる在りようの特徴が把握しやすくなるでしょう。最後に、「怖い」という訴えにもとづいて、Aさんの現状をアセスメントして、Aさんの心理療法の開始時点での目標と方法を、精神分析の理論に基づいて、さらに行動論・認知論の立場に拠って、それぞれに記述しましょう。

■レポート 評価基準

評価は、(1)課題に提示されている点に沿ってレポートが作成されていること、(2)複数の文献を参照して自分の見解を述べていること、(3)適切な書式で、箇条書きではなく文章で記してあること、の点から行います。

(1)引用の明示がなく、剽窃や盗用を行っているときみなされるもの、(2)教科書の抜粋を行っているだけで他の文献を参照していないもの、は評価の対象とせず再提出を求めます。

科目修了試験

■評価基準

出題されているポイントをもれなく記述しているか、それに加えて自分の見解を述べているか、の2点から評価します。誤字脱字や不適切な記述は減点の対象となります。

心理学的支援法Ⅲ 2018～

科目コード **FF4558**

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	R	3年以上	秋田 恭子



※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。

科目の概要

■科目の内容

「心理学概論A」「心理学概論B」「福祉心理学」「発達心理学」「心理学実験ⅠA」「社会・集団・家族心理学A（社会・集団心理学）」「臨床心理学概論Ⅰ」「心理的アセスメントⅠ」「心理学的支援法Ⅰ」「心理学的支援法Ⅱ」10科目の知識を生かし、事例をアセスメントできその上でそれぞれのクライアントにとってどのような「アプローチが望ましいか」の感覚を身につける。

■到達目標

- 1) 代表的な心理療法並びにカウンセリングの概念、意義、適応及び限界を述べることができる。
- 2) プライバシーへの配慮について説明できる。
- 3) 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法を述べることができる。

■教科書（「心理学的支援法Ⅰ・Ⅱ」と共通）

末武康弘『心理学的支援法－カウンセリングと心理療法の基礎』誠信書房、2018年

■履修登録条件

この科目は、レポート提出条件の達成に必要な科目をすでに履修登録済みか、同時に履修登録する方のみが履修登録可能です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「共感と自己尊重に基づくコミュニケーション力」、「自己理解に基づくセルフコントロール力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40% + 科目修了試験60%

■参考図書

レポート提出条件の10科目で挙げられている参考図書を参照してください。

レポート学習

■在宅学習8のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	第8章 心理学的主要理論（その3）	精神分析と精神力動的セラピー（フロイトの理論およびその後の精神分析の自我心理学・対象関係論）	すべての心理療法始まりは、フロイトからです。フロイトの理論を中心にその後精神分析理論を学ぶ。
2	第8章 心理学的主要理論（その3）	ユング分析心理学・アドラーの個人心理学・新フロイト派精神力動的セラピーの主要な方法	フロイトから離れた人たちの理論および精神力動的セラピーの基本的原則・方法を学ぶ。
3	第9章 心理学的主要理論（その1）	認知行動療法	認知行動療法アプローチの仕方学ぶ。
4	第6章 心理学的主要理論（その1）	パーソンセンターセラピー	パーソンドセンターセラピーの理論及び方法を学ぶ。
5	第7章 心理学的主要理論（その2）	パーソンセンターセラピーの発展的方法とヒューマニスティックセラピー	エンカウンターグループおよびロジャース以後のパーソンセンターを学ぶ。
6	第10章 心理学的主要理論（その2）	3つの心理学的支援法以外の方法	家族療法・ブルーフェラピー・表現芸術療法・交流分析・対人関係療法を学ぶ。
7	第11章 心理学的支援法のプロセスと実際	心理学的支援法のプロセス・心理学的支援法の実際と留意点①	インテーク・ケースフォーミュレーションを学ぶ。
8	第11章 心理学的支援法のプロセスと実際	心理学的支援法の実際と留意点②	家族関係者への支援・アウトリーチ・心理教育を学ぶ。

■レポート課題

※レポート提出条件

- (1) 「心理学概論A」、「心理学概論B」、「福祉心理学」、「発達心理学」、「心理学実験

ⅠA」、「社会・集団・家族心理学A（社会・集団心理学）」、「臨床心理学概論Ⅰ」、「心理的アセスメントⅠ」、「心理学的支援法Ⅰ」、「心理学的支援法Ⅱ」、計10科目の単位修得

(2) 卒業要件単位90単位以上修得していること

1 単位め

Aさんは、30歳の会社員の男性です。家族は、会社員の父、専業主婦の母、本人、弟2人です。Aさんは、小さいころから泣かない、だれにでもついていくような明るい子供でした。そして、兄弟からも親から頼りにされていました。野球が大好きでお父さんとよく球場に行っていました。学校の成績は優秀で、先生からの評判も良い生徒でした。ただ、小学校4年生の時に父親と進学のことでは意見が合わず、一時不登校になりました。その際に担任から勧められたが、スクールカウンセラーの所には親子共々来室したいという希望はなかったです。父親とはその後何となく疎遠になりました。中学は両親の希望もあり、中高一貫の男子校の進学校に進み、部活はバスケットボール部に所属し、主将も務めました。高校では生徒会長にもなりました。希望の大学に入学し、父親と同じような一流企業に入社しましたが、28歳の時に役職についていた父親が突然亡くなりました。その時は涙も見せずに落ち込んでいる母に代わり葬式を仕切り、立派な葬儀となりました。また、最近結婚が決まり、母親と同居するかそれとも新婚夫婦2人で住むかということで少し困っていました。会社では本人は苦手とする上司でしたが、上司からは信頼もあつくプロジェクトリーダーを任せられることになりました。このプロジェクトに成功すれば昇進の道が約束されているとのことでした。その矢先に、会社に行く電車の中で心臓が締め付けられるような痛みを感じて、どうしても会社に行けなくなりました。そこでしばらく自宅で療養することになりました。総合病院の内科に受診しましたが心臓の検査結果に異常はなく、内科医からは精神科を勧められました。同じ病院の精神科では、不安に対する薬の処方されましたが、不安となることについては、なかなか特定できず、医師より病院内の心理士を紹介されてきました。なお、薬の処方もあるので先の精神科医はこのまま主治医としてかわっていくことになっています。

Aさんの上記の情報からAさんについて、心理士の立場からアセスメントしてください。その際に、まずは、概括的情報からのアセスメントをおこない、つぎに、①から③の観点<①認知行動的観点②精神力動的観点③パーソンセンタード/ヒューマにスティックな観点>のうちの1つを選んでその観点からアセスメントしてください。どの観点からのものかを必ず書いてください。その観点からの面接において、どのように進めていき、またどのような留意点が必要かを述べてください。また、心理検査を行うとしたら何を知るためにどんな検査を行うのかも書いてください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1 単位め アドバイス

教科書の p. 155～157 の実践への示唆 11. 1 を参考にケースフォーミュレーションを行ってください。最初に、概括的情報からアセスメントをしたうえで、それぞれの療法のアセスメントの観点の違いを理解したうえで選んだ観点からアセスメントをしてください。最後に、どのようなことを留意して面接を進めていくのか心理検査は具体的に何をするのかを述べてください。もう少し細かく述べますと、まずは、概括的情報として、このクライアントの年齢から考えての発達課題となることは何でしょうか。来室経路についてはどう考えますか。生育歴からどんなことが推察されますか。家族との関係はどうでしょうか。そのほかの人との関係はどうでしょうか。次に、それぞれの観点からアセスメントしてください。その際に、その観点の中で何を特に重視するかを明確にして、最後に援助の目標をどのあたりに設定するかを決めてください。このことはクライアントとの合意によりますがひとまずは考えてみてください。また、面接を進めていくうちになにか気を付けておく必要なことはあるでしょうか。その点も考えて書いてください。もし心理検査をこの人にするとしたらどんな検査を何のためにしたらよいかも具体的に書いてください。

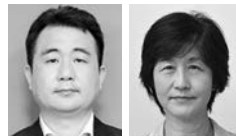
以上の観点をまんべんなく書いていただいたことでレポートを評価します。

科目修了試験

■評価基準

教科書の第11章をよく読んで臨んでください。

健康・医療心理学		科目コード	FF4559
単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR (講義)	3 年以上	中村 修 菊池 陽子



※スクーリングを受講する方は、スクーリング受講条件にご留意ください。

科目の概要

■科目の内容

健康を支援する取り組みにおいては「不健康状態の解消」だけが目標になるのではなく、近年では「今ある健康を維持する」あるいは「ますます健康になる」という目標が重視されてきている。本講義では「健康である者はなぜ健康なのか」という問いのもと、心理学の新たな分野である健康心理学の知見とその活用について詳述していく。また、健康を支援する実際の現場での心理学の立場から指摘される課題と支援について、医療・保健現場・災害時支援の領域ごとに整理する。

■到達目標

- 1) 健康心理学の基本概念を習得し、他の心理学領域との差異を説明できる。
- 2) ストレスを心身の疾病の関係を説明できる。
- 3) 自己のライフスタイルの形成・修正に習得した理論／概念を役立てることができる。
- 4) 医療現場・保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援を説明できる。
- 5) 災害時等に必要な心理支援を説明できる。

■教科書

宮脇稔・大野太郎・藤本豊・松野俊夫（編）『健康・医療心理学』医歯薬出版、2018年（スクーリング時の教科書）上記教科書を必ず持参ください。

■履修登録条件

この科目は、受講条件の達成に必要な科目をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録可能です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理学の立場からの健康問題へのアプローチの仕方を理解することにより、特に「総合的な人間理解力」「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」「自己理解に基づく自己コントロール力」「心理学の学びを活かした社会貢献力」を身に付けてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%＋スクーリング評価or科目修了試験50%

■参考図書

- 1) 森和代（監修）、石川利江・松田与理子（編著）『ライフコースの健康心理学』晃洋書房、2017年
- 2) 大竹恵子（編著）『保健と健康の心理学』（保健と健康の心理学 標準テキスト 第1巻）ナカニシア出版、2016年
- 3) 羽鳥健司（編著）『臨床健康心理学』（保健と健康の心理学 標準テキスト 第4巻）ナカニシア出版、2017年
- 4) 岸太一・藤野秀美（編著）『健康・医療心理学』（保健と健康の心理学 標準テキスト 第6巻）ナカニシア出版、2017年
- 5) 斎藤環『人間にとって健康とは何か』PHP新書、2016年
- 6) 島井哲志『「やめられない」心理学—不健康な習慣はなぜ心地よいのか』集英社新書、2008年

スクーリング

■スクーリング受講条件

2018年度以降入学者：「心理学概論A」「心理学概論B」「福祉心理学」の単位修得。

2017年度以前入学者：「心理学概論」「福祉心理学」の単位修得。

■スクーリングで学んでほしいこと

健康心理学と医療心理学について扱うこの授業では扱う内容がかなり多くなってしまおうのですが、スクーリングでは健康心理学領域の「ストレス」の問題を中心に扱っていきます。「ストレスとは何か、ストレスに立ち向かうには何が必要か」を理解して周囲の人の支援に活用できるようにするだけでなく、何より受講生が自分自身のストレスの問題、健康の問題に対してきちんと取り組めるようになってもらいたいと思います。なお、講義テーマと内容には医療心理学の事柄が表立って出ていませんが、講義の中で適宜扱っていく予定です。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	健康心理学とは、医療心理学とは	特に臨床心理学と対比させながら、健康心理学と医療心理学の特徴を明確化する。
2	健康行動を説明するモデル	人を健康行動へと後押しする際に注意すべき要因について理解する。

回数	テーマ	内 容
3	ストレスマネジメント①： ストレスとは何か	ストレス概念について、特にトランスアクションル・モデルについて理解する。
4	ストレスマネジメント②： リラクゼーション	心身相関という考え方、リラクゼーション法について理解する。
5	ストレスマネジメント③： 認知面への介入	認知面での「歪み」がもたらす問題とその修正の仕方について理解する。
6	健康・医療学の実際①： 産業保健	産業領域における心理的・精神的も問題と、それに対して必要となる心理支援について理解する。
7	健康・医療学の実際②： 災害支援	災害時に必要とされる心理支援について理解する。あわせて他職種が「チーム」を組む必要性について理解する。
8	質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

配付資料と教科書をもとに、板書しながら進めます。具体的な事例を提示する際にはDVDを用います。

■スクーリング 評価基準

特に到達目標記載内容についての理解を問います。スクーリング中に学んだことを活用して答えなければならない問題を出題します（ノート、教科書、配付資料持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

スクーリング講義内容として示した内容は、教科書の単独の章が必ずしも対応するとは限りません。主に1章から3章が中心のように見えても、1章から3章で用いられている概念がその後の章で繰り返し用いられ、様々な場面での問題や必要となる支援を説明しています。教科書の全体に目を通して、どんな概念が繰り返し用いられているのかよく確認しておいてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	健康心理学とは (1章)	健康とは、健康心理学とは何か キーワード：WHOによる定義、健康増進、健康日本21、死因の変化、第一次予防、第二次予防、第三次予防、ライフスタイル改善、アドヒアランス	健康とは何かをWHOの定義に基づいて理解した上で、健康心理学の特徴を臨床心理学や行動科学との対比で理解する。健康増進及び予防が重要視されるようになった背景を理解し、予防にも対象者の状態に応じて3種類ありそれぞれに応じたかかわりが必要であることを学ぶ。
2	健康心理学及び医療心理学におけるアセスメント(2章1、6章1)	アセスメントという点で健康心理学と医療心理学はどう違うか キーワード：面接、行動観察、知能検査、心理検査、テストバッテリー	教科書にて説明される医療心理学のアセスメント法は臨床心理学のアセスメント法とほぼ同じと言ってよい。その医療心理学のアセスメント法と対比させながら健康心理学に特徴的なアセスメント法を理解する。
3	健康心理学におけるアセスメントと支援：健康行動モデル(2章2、3)	健康行動を説明するモデル キーワード：生物・心理・社会モデル、計画的行動理論、自己効力感、トランスセオレティカルモデル	人が健康行動を進んでしようとする場合、しない場合にはどのような要因が働いているのか、どのような支援をすれば人を健康の方向へと後押しすることができるのか、そのポイントを学ぶ。
4	ストレスマネジメント①：ストレスとは何か(3章1)	ストレス概念を理解する キーワード：ストレッサー、ライフイベント、トランスアクションル・モデル、一次評価、二次評価、コーピング	ストレスを理解するうえでの基本的な用語を理解した上で、現代の代表的なストレス理論であるトランスアクションル・モデル(ストレス相互作用モデル)について理解する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
5	ストレスマネジメント②：認知的評価への介入（3章2）	認知に着目したストレスマネジメント法を理解する。 キーワード：認知的評価、論理療法、認知療法、不合理信念、ポジティブ思考	ストレスマネジメントの方法として、特に認知の歪みや偏った思考の修正を目指した方法を理解する。
6	ストレスマネジメント③：ストレスラーとの関係調整、リラクゼーション法（3章3の2）から5）、4章2の1）と2）	ストレスラーとの関係調整を目的とした方法、リラクゼーションを目的とした方法を理解する。 キーワード：アサーション、エクスポージャー、リラクゼーション、漸進的筋弛緩法、自律訓練法	ストレスマネジメントの方法として、心身の弛緩を目的とした方法や社会的関係から受け取るサポートに着目した方法を理解する。
7	ストレスマネジメント④：その他の方法（3章3の6）と7）、4章2の3）	様々なストレスマネジメント法を理解する キーワード：ソーシャルサポート、ACT	ストレスマネジメントの方法として、心身の弛緩を目的とした方法や社会的関係から受け取るサポートに着目した方法を理解する。
8	医療心理学とは（5章、6章2）	医療心理学とは何か、医療における心理職の役割とは何か キーワード：臨床心理学、チーム、個別支援、集団（グループ）支援、診断、DSM、ライフステージ	医療現場の中で働く心理専門職の位置づけについて、臨床心理学の歴史をもとに理解する。そして医療現場の中での心理職の専門性とはどのようなところにあるのか理解する。
9	医療心理学の実践①：精神科、児童精神科（7章）、地域保健活動（13章）	精神疾患及びその心理支援地域での支援 キーワード：精神科医療、ICD-10、DSM- 5、主な疾患とその特徴、児童精神科、コンサルテーションリエゾン、地域保健活動、保健センター・デイケア	代表的な精神疾患やアセスメント法は他の科目でも触れる機会も多いかもしれない。ここでは特にコンサルテーションリエゾンの考え方、地域で暮らす精神保健サービスの対象者への支援についてよく学んでほしい。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
10	医療心理学の実 際②：心療内科 (9章)	心身症とは何か、ストレス概 念と関連付けて理解する。 キーワード：心理社会的因 子、心身相関、アレキシサイ ミア、過剰適応、生物・心 理・社会モデル (バイオ・サ イコ・ソーシャルモデル)	ストレス、特に心理社会的要 因が身体的な疾患へとつなが ることを理解する。その上で 心療内科での心理支援につい て理解する。
11	医療心理学の実 際③：緩和医療 (11章)、院内独 立型心理室 (8 章)	緩和医療とは何か キーワード：QOL、全人的 苦痛、精神心理的苦痛、死の 受容、	緩和医療についてその特徴、 歴史や課題を理解し、さらに その関連として院内独立型心 理室について理解する。
12	医療心理学の実 際④：産業保健 (12章)	労働者の健康保持・増進を支 援するには キーワード：ストレス関連疾 患、労働安全衛生法、4つの ケア、職業性ストレスモデ ル、ストレスチェック制度	産業保健について重視される ようになった社会的背景を理 解し、その上で「4つのケ ア」及び職業性ストレスモデ ルに基づく産業領域ならではの 支援について理解する。
13	医療心理学の実 際⑤：小児保 健、母子保健 (11章)	小児医療領域における心理学 的問題、周産期に必要な心理 支援について理解する キーワード：発達障害、発達 の遅れ、認知機能検査、きょ うだいへの配慮、遺伝カウン セリング、産後うつ、母子保 健事業	「子どもが生まれ、育ってい く」過程での親子双方におけ る心理的問題と心理的支援に ついて理解する。
14	医療心理学の実 際⑥：災害時支 援 (14章)	災害時に必要とされる支援と は何か キーワード：ASD、PTSD、 サイコロジカルファーストエ イド (PFA)	災害時の人の心の動き及びサ ポートニーズ (の時間経過に 伴う変化) を理解し、その上 で必要とされる心理的支援に ついて理解する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
15	健康医療心理学 の実際⑦：他職 種協働と医療連 携(15章、8章、 13章、4章2の 4)	チームで支援するとは、アド ヒアランス キーワード：チーム医療、他 職種協働	これまでの学びの中で繰り返 してきてきた「チーム医療」に ついて、どうして「チーム」 が強調されるようになったの か、なぜ多職種が協働するこ とが求められるのかについて 理解する。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	ラザルスの提唱したストレスのトランスアクションル・モデルに関し て、以下の①から③について答えよ。 ①「認知的評価」とは何か ②「コーピング(対処)」とは何か ③効果的にストレスに対処するにはどうすればいいか、何に気を付け ればいいか *特に③では「認知的評価」と「コーピング」という2つの概念も必 ず説明に含めること。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1 単位め
アドバイス

教科書をよく読み、客観式レポート課題に解答してください。「TFUオン
デマンド」上で解答することも可能です。

2 単位め
アドバイス

まずはストレスのトランスアクションル・モデルについて理解してくだ
さい。このモデルは、ストレスに関する研究を行ったり、ストレスという
観点からの心理的支援を検討する際に、必ず必要となる必須の知識です。
まずはモデルをきちんと理解しましょう。その理解を反映するのが①「認知的評価とは
何か」、②「コーピング(対処)とは何か」に対する回答となります。なお、認知的評
価はさらに「一次(的)評価」「二次(的)評価」と区分されるのでその両方を欠かさ
ず説明に含めるようにしてください。

モデルを理解したら、それを使って「どのようにストレスに対処するのが効果的な
か」について考えてみて下さい。ただし、「ストレスには〇〇すればいい」という唯一
無二の方法を考え出すことを求めているではありません。トランスアクションル・モ
デルの考え方のたつと、「〇〇な場合には△△に対処するのがいい」「ストレスに強くな

るには××な部分を□□するのがいい」といった「原理原則」のようなものが見えてくるはずですが。どんな方針でストレスの問題に立ち向かうといいのか、「認知的評価」及び「コーピング」という概念も説明に織り込みながら説明してください。

なお、ラザルスの提唱したトランスアクションル・モデルは書籍や文献によっては「ストレス相互作用論」「ストレス関係論」など様々に異なる名称が用いられている場合があります。皆さんが手にする資料での「表記・訳語の違い」に惑わされずに、説明されている内容が同じものを積極的に探して理解を豊かにするとよいでしょう。もちろん、引用文献・参考文献の用い方のルールもきちんと守ってレポートに活用することをお忘れなく。

■レポート 評価基準

内容の評価以前に、レポートの書き方の問題として「引用文献の使い方」について十分注意してください。『学習の手引き』の「レポート学習」に記載している『引用』と『要約』の「ルール」の欄をよく読んで、「どこからどこまでが何からの引用なのか」がはっきりと分かるように書いてください。この点がうやむやであったり明らかな間違いがあったりするレポートは再提出としています。なお「教科書に書いてある文章を、一部の言葉を削除して、あとはそのまま書く」のは「自分なりの要約」ではなく「引用」となります。

科目修了試験

■評価基準

- 1) 科目修了試験は教科書全般にわたって出題されます。
- 2) 教科書の内容をしっかりと理解できていなければかける問題です。教科書の中で、重要な意味をもつ言葉（キーワード）が性格に説明できているかが大きな採点のポイントになります。キーワードをよく確認しておきましょう。
- 3) 学んだ概念・キーワードについて、自分及び周りにいる人々の姿・行動から事例として適切なものを選択して解答におこむことができると評価が高まります。

神経・生理心理学

科目コード

FJ3562

単位数

履修方法

配当年次

担当教員

2

R or SR
(講義)

2年以上

河地 庸介



※2020年3月卒業希望者は、2019/3/28～29のスクーリングは受講できません。

※スクーリングを受講する方は、スクーリング受講条件にご留意ください。

科目の概要

■科目の内容

人間は、外界の事物、自分や他者の状態など多種多様な情報を受け取り、行動を選択し、外界に働きかけながら生活しています。この生活を支えているのは感覚・知覚・注意・記憶・感情・言語・運動といった「こころ」の様々な機能、さらにはそれらの機能を実現させている脳・身体です。本講義では、種々の心的機能を関連する脳内メカニズムの観点から理解することを主として講義を進めていきます。

具体的な内容には、1) 種々の心的機能を支える脳構造・機能と結びつけて説明することができる、2) 心と脳の関係性がいかなる研究法・臨床例等によって明らかにされてきたかを説明することができる、3) 心と脳の関係について現在までの研究で言えることと、言えないことの区別ができること、に焦点をあててお話しします。

【スクーリングで学ぶ内容】脳の3次元画像を含む多くの画像資料をみながら、心と脳の関係について学びます。

【教科書・レポート学習で学ぶ内容】心を実現する脳構造・機能についての基礎的な知識について学習します。

■到達目標

- 1) 脳神経系の構造および機能を説明できる。
- 2) 知覚・記憶・感情等の働きに対応する生理学的反応とその仕組みを説明できる。
- 3) 高次脳機能障害の諸症状とその仕組みを説明できる。
- 4) 種々の情報メディアで取りあげられる心理学や脳科学を理解・評価できる。

■教科書

(配本する教科書)

岡田隆・廣中直行・宮森孝史著『生理心理学 第2版』サイエンス社、2015年
(スクーリング時の教科書) 上記教科書は参考程度に使用します。

(インターネット上の事典)

脳科学辞典編集委員会編『脳科学辞典』日本神経科学学会、2019年

(<https://bsd.neuroinf.jp/wiki/%E8%84%B3%E7%A7%91%E5%AD%A6%E8%B9%E5%85%B8:%E7%B4%A2%E5%BC%95>)

*教科書および参考図書のみでは内容的に不十分なことがありますので、随時検索して理解を深めてください。

■履修登録条件

この科目は、受講条件の達成に必要な科目をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録可能です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「根拠に基づく情報発信力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価60%＋スクーリング評価or科目修了試験40%

■参考図書

- 1) 坂田省吾・山田富美雄編『生理心理学と精神生理学 第1巻 基礎』北大路書房、2017年
- 2) 藤永保監修『最新 心理学事典』平凡社、2013年

■事前に学習してほしい科目

本講義では脳の構造・機能に関連する話が大半を占めるため、知覚認知心理学や心理学概論で扱うテーマを詳細に振り返ることはしません。したがって、下記の科目は事前に受講していることが望ましいです。

2018年度以降入学者：「知覚・認知心理学」「心理学概論A・B」

2017年度以前入学者：「認知心理学」「心理学概論」

スクーリング

■スクーリング受講条件

2018年度以降入学者：「心理学概論A」「心理学概論B」「福祉心理学」「発達心理学」の単位修得。

2017年度以前入学者：「心理学概論」「福祉心理学」「生涯発達心理学」の単位修得。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	神経・生理心理学とは何か	様々な心理学の中で神経・生理心理学とは何を する学問なのかについて、歴史を概観しながら 学びます。

回数	テーマ	内 容
2	脳の機能・構造について	その活動が神経・生理心理学の測定対象の1つとなる脳機能・構造について学びます。
3	ニューロン・シナプス・神経伝達物質について	脳をはじめとした神経系における情報伝達の仕組みについて学びます。
4	神経・生理心理学および脳科学における測定法	神経・生理心理学および脳科学で用いる測定法について学びます。
5	覚醒・睡眠	覚醒・睡眠に伴う生理的な反応や関連する脳情報処理について学びます。
6	感覚・知覚機能とその障害	視覚を中心として感覚・知覚の脳情報処理について学びます。
7	記憶機能とその障害	記憶に関わる脳情報処理および機能障害について学びます。
8	情動機能とその障害	情動に関わる脳情報処理および機能障害について学びます。
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントと配付資料を用いて講義を行います。教科書は参考程度に使用します。可能な限り、各回の冒頭にて学生の疑問に関する説明・解説を行います。

■スクーリング 評価基準

スクーリング中に学んだ内容から出題します。なお、講義資料は持込み可とします。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

高校生物における「神経系」関連項目についての復習をお勧めします。また、脳の構造について概観しておくとう講がより円滑に進められるものと思います。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

本科目は他の心理学科目に比べると、生理学・解剖学・生物学に関わる聞きなれない専門用語が多く出てきますので毎回の講義はそれまでの講義の内容の理解を前提としているため、復習を心がけてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	神経心理学と生理心理学 (教科書 0章、参考図書1) 1章 1節)	神経心理学と生理心理学の歴史・脳機能局在論について学びます。	主として神経心理学の歴史を学ぶ中で、脳機能局在の考え方を説明できるようにしましょう。
2	脳の構造と機能1 (教科書 1章、参考図書1) 2章 2節)	大脳皮質や大脳辺縁系の構造・機能について学びます。	脳内の種々の部位の立体的な位置関係をつかみながら、各脳部位に主として対応するとされている脳機能について学習を進めてください。
3	脳の構造と機能2 (教科書 1章、参考図書1) 2章 2節)	大脳基底核や脳幹の構造・機能について学びます。	複雑な脳部位各々の立体的な位置関係をつかみながら、各脳部位に主として対応するとされている脳機能について学習を進めてください。
4	脳と末梢神経系 (参考図書1) 2章 2節)	体性神経系(運動・感覚神経)・自律神経系(交感神経・副交感神経)について学びます	交感神経系、または副交感神経系の活動が優位になるときの各器官の変化、これら2つの神経系と大脳基底核や脳幹の関係に着目して学習を進めてください。
5	脳と心の測定法 (教科書 11章 p 240-245、参考図書1) 9章、10章)	脳波、ERP、fMRIなどに加えて、心電図・心拍・発汗・眼球運動について学びます。	生体のどの器官のどのような反応を測定しているかを説明できるようにしましょう。
6	脳内の情報伝達 (教科書 2章)	ニューロン、シナプス、神経伝達物質について学びます。	脳情報処理系を広く理解する基礎となる神経細胞内での情報の伝導・神経細胞間の情報の伝達を説明できるようにしましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
7	覚醒・睡眠 (教科書 10章)	脳波による睡眠段階、概日リズム、脳幹網様体賦活系等について学びます。	覚醒・睡眠にかかわる脳波の変化等の生理心理学的な知見を学び、さらに覚醒・睡眠を制御する脳幹網様体賦活系や視床下部等の脳内メカニズムについて学習を進めてください。
8	視覚1 (教科書 3章 p48-51)	錐体細胞・桿体細胞・受容野・側抑制について学びます。	眼球に差し込む光はいかにして受容され、電気信号に変換されるのかを説明できるようにしましょう。
9	視覚2 (教科書 3章 p52-57)	眼球から脳に至る情報処理経路・初期視覚野・ハイパーカラム・背側経路・腹側経路について学びます。	眼球に差し込む光がいかにして電気信号に変換され、脳へと届けられ、知覚が生まれるのかを説明できるようにしましょう。
10	聴覚 (教科書 3章 p58-59)	鼓膜、耳小骨、蝸牛、聴覚野、ピッチについて学びます。	空気の振動としての音による鼓膜の振動が電気信号に変換され、脳へと届けられ、知覚が生まれるのかを説明できるようにしましょう。
11	記憶 (教科書 4章)	記憶の種類、健忘症、海馬、長期増強について学びます。	記憶の種類と健忘症の関係、海馬を中心とした記憶の脳情報処理などに焦点をあてて理解を進めましょう。
12	言語 (教科書 9章 p186-189、参考図書2) p151-153)	言語産出・言語理解・ブローカ野・ウェルニッケ野について学びます。	言語処理に関わる心理モデルに対応する脳機能ネットワークの概略をつかむこと目標に学習を進めます。
13	情動 (教科書 6章 p112-117)	情動とは何か、生理的反応、扁桃体、眼窩前頭前野、情動障害について学びます。	情動機能を実現する脳部位の観点から意思決定の障害や不安障害等について理解を深めていきます。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
14	運動 (参考図書 2) p38-39)	運動野、小脳、内部モデル (順モデル・逆モデル) について学びます。	いかにして滑らかな運動が生み出されているかを心理学的に記述する内部モデルと関連する脳部位の概略をつかむことを目標に学習を進めます。
15	心の病気 (教科書 8章、 12章)	精神疾患や発達障害と関連があるとされる脳部位について学ぶとともに、現在の研究の限界について学びます。	種々の精神疾患や発達障害が脳機能障害とみなされるようになった経緯を学びながら、現在の研究でわかっていることと、そうでないことを明確にすることを目標に学習を進めます。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	次の①、②について記述してください。 ① Broca, P. P. や Wernicke, C. の研究に触れながら、脳機能局在論について説明しなさい。 ② 海馬を損傷した場合に日々の生活がどのようなものになるかを想像して答えなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

現在のところ一般的なといえるような神経・生理心理学の教科書がないため、当該科目の全体像をつかむのがやや難しい状況です。ですので、在宅学習15のポイントの「学びのポイント」において、各テーマを学習する際に意識すべき話の流れを記述しておきました。この話の流れを見失わないように注意しながら、指定した教科書・参考書で関連する箇所を見つけて学習を進めてください。また、適宜インターネット上の資料ではありますが、日本神経科学学会の監督下にあり、内容的に信頼できる『脳科学辞典』等で関連用語を調べるのも有効です。

また、本科目は新しい専門用語が多数あり、生理学、解剖学等をはじめとした関連学問領域も多いので、随時十分に復習をしながら学習を進めていって頂ければと思います。

1 単位め
アドバイス

教科書をよく読み、客観式レポート課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2 単位め
アドバイス

①については神経心理学が確立されるに至った経緯を概観することで説明することができます。ですが、教科書や参考図書だけではうまく経緯を追えない場合等は、インターネット上の教科書である『脳科学辞典』で「機能局在」等をキーワードに検索をかけて理解を深めるとよいでしょう。

②については、まず海馬という脳部位が主にどういった心的機能を担う部位であるのかを述べるのが大切です。その上で生じうる健忘症について考えを進めて記述していくとよいでしょう。その際、インターネット上の教科書である『脳科学辞典』で「健忘症候群」「前向性健忘」「逆行性健忘」を参考にするとより深く書き込めるでしょう。

■レポート 評価基準

評価基準は以下の通りです。①設問を振り返りながら、設問で扱う専門用語・関連用語の定義が明確になされているか。②正確に習得した知識に基づいて、「なぜそう言えるのか」を第三者が理解できるような形で、すなわち論理的に述べることができるか（問題への解答）。

科目修了試験

■評価基準

評価の基準は、講義内容を正確に理解できているか否かです。そのため、科目修了試験の対策として講義資料をしっかりと読み、疑問点等を極力残さないようにすることに尽きます。